

週日の説教

金 大烈 神父 2009年3月27日(金)

《"悟る" 喜び》

今日の福音に入る前に、第一朗読(知恵 2・1a、12 - 22)に書いてある知恵の書の言葉を思い出したいと思います。

「神に従う人は、神を知っていると公言し、自らを主の僕と呼んでいる。」

「神に従う人の最期は幸せだと言い、神が自分の父であると豪語する。」

この言葉に当たる生活をなさっているでしょうか。

癖になるくらい "私はあなたの僕です" という告白ができますか。告白ができるのならば証拠が必要です。何があってもあなたにすなおに従います、という心をお持ちでしょうか。神様に対する従順性がなければ "あなたの僕です" という言葉は嘘になります。

「神が自分の父であると豪語する。」「神に従う人の最期は幸せだと言う。」これはある程度、簡単ですね。皆様、神様に会って幸せだと思われるでしょう。それは私も認めます。

問題は、先に話した「あなたの僕です」と言いながら従順にしようとしめない態度です。それについてもう一度私たちは、お互いに反省してみましょう。

次に、答唱詩編です。「主が訪れる人の顔は輝く。」と一緒に唱えましたね。皆様は、全員お顔がきれいに輝いています。主が訪れていらっしゃるようです。自信を持ってください。

では、福音(ヨハネ 7・1 - 2, 10, 25 - 30)に入ります。信仰生活の中で、いろいろな喜びが得られます。その中で一番大きな喜びは、"悟る" ことではないかと思えます。では、"気がつく" ことと "悟る" ことではどのような差があるのでしょうか。どちらも私たちはよく使いますね。"気がつく" は、少し浅い感じがします。悪い知恵によるものでも気がつくと言います。しかし、"悟る" という言葉には、悪いことは入っていません。知恵によって正しいことを悟ることになります。「500万円をもらえなかった」というのは "気がついた" とことです。"悟った" とはいいません。「神様にこのくらい赦されていることが今日分かった」というのは "悟り" です。

"悟る" 喜びには、良いことを悟ることもあります。自分の間違いや正しくない道を歩んできたことを悟ることもあります。私たちの信仰の道は、少しずつ少しずつ悟らせていただきながら歩む道ではないかと思えます。"悟り" というのは、自分の力で得るものではありません。悟らせていただくものです。神様から与えられた知恵によるものです。信仰のうちに祈りや聖霊の働き、神様の慈しみによって、少しずつ自分の力では全然分からなかったところまで神様が悟らせてくださる、ということをおぼろげに意識しなければならぬと思えます。私たちは、辛いことを悟っても嬉しく感じられます。なぜならば、悔い改める恵みが与えられるからです。知らなければ私たちは絶対に回心ができません。回心すべきことが分かるようになるのは、私たちの信仰によってではないかと思えます。

皆様、私たちはこの道を歩む中で、どこまで悟れるのか分かりません。死ぬときに、「今まであなたが私を守ってくださっていたことがはっきり分かりました。」と言えるくらいの悟りの告白ができれば何という幸せでしょうか。その言葉が、頭ではなく心から自然に出てくるように、今私たちに与えられているこの時間を大事にしなければならぬのではないかと考えてみました。

ありがとうございました。